

## ボランティアを受け入れるための基盤をつくる

社会福祉施設のボランティア受け入れ担当者（以下、「コーディネーター」）は、「コーディネーターは孤立している」「コーディネーターの意義は感じつつも他業務との兼務のため、時間が割けない」「どのように受け入れたらよいかわからない」という体制の問題から、「ボランティアが継続しない」「学生のボランティアを増やしたいがプログラムがつかれない」などの多くの悩みを抱えています。

それらコーディネーターが抱える悩みは自分ひとりで抱えるものではなく、職場全体で受け止めるべき課題と言えるのではないのでしょうか。コーディネーターのみならず、施設長やスタッフ全員が理解すべき事柄を整理し、コーディネーターが解決すべき課題や、職場でのオリジナルな受け入れスタイルをつくるためにはどのような取り組みをすすめればよいのでしょうか。

### なぜ指針づくりなのか？

本会かながわボランティアセンターでは、市町村社協や社会福祉施設（以下「施設」）のボランティアコーディネーターを対象とした研修会をおこなってきました。

しかし、社会福祉制度改革に伴う施設機能の見直しや、「総合的な学習の時間」に伴う学校側からの施設に対する期待が高まるなか、ボランティア受け入れに対する施設内のスタッフや管理者の共通理解が乏しいことや、コーディネーターの立場・有効性を施設全体で認識できていないという状況のなかで、施設でのボランティア活動がよりスムーズにおこなわれるためには、コーディネーター

の研修にとどまらず、ボランティア受け入れに際しての基盤となる考え方が求められます。

そこで、平成十五年度に設置した「施設ボランティアコーディネーション指針検討委員会（座長・妻鹿ふみ子氏、京都光華女子大学教授）」では、施設のボランティア受け入れに對する基本的な考え方の検討と併せて、ボランティア受け入れのプロセスに応じた指針づくりに取り組み、その指針が完成しました。

指針は、高齢関係と障害関係の施設を中心に、コーディネーターのみならず、施設長を始め、職員全員が理解すべき事柄を盛り込んだものとなっています。

### コーディネーターが抱える課題

本指針は、実際のボランティア受け入れ時の特徴的な十九の課題について、具体的な事例を入れながら方向性を示しています。これらはすべて実際にコーディネーターが抱え、解決しにくい課題でもあるといえるでしょう。

### ボランティア受け入れと オリエンテーション

ボランティア受け入れ時には、多くの施設でオリエンテーションをおこないます。コーディネーターが掲げた課題で最も多かったのが、「ボランティアの受け入れ方法」「オリエンテーションの方法」でした。ここ